

治山事業による山地災害の防止

3か年緊急対策

5か年加速化対策

国土強靱化

NATIONAL RESILIENCE

災害時の効果発揮事例

概要 要：令和7年8月6日からの大雨において長崎県で最大日雨量366.5mmを観測したが、山地災害発生リスクの高い地区において整備した治山ダムが土石を捕捉したことにより、下流域への被害を防止した。

対策名：3 山地災害危険地区等における治山対策<5か年加速化対策>【林野庁】

■ 実施主体：林野庁九州森林管理局

■ 実施場所：長崎県島原市

■ 事業概要：

普賢岳^{ふげんだけ}周辺は火山噴出物が堆積しており、降雨のたびに土石流が発生する山地災害発生リスクの高い地区である。平成30年7月に発生した大雨（最大日雨量322.5mm、最大1時間雨量53.5mm）では、下流域の既設治山ダムまで土石流が流下したことを受け、さらなる土石流が発生した際には、下流域の集落等まで被害が及ぶおそれがあることから、上流域において新たに治山ダム2基を整備した。

■ 事業費：約1.70億円（令和元年度～令和6年度）

主な事業	実施内容	事業費	実施期間
復旧治山事業	治山ダム2基 流路疎通工	約1.70億円	R元～R6
うち3か年緊急対策	治山ダム1基	約0.64億円	R元～R2
うち5か年加速化対策 (加速化・深化分)	治山ダム1基 流路疎通工	約1.06億円	R5～R6

■ 災害の外力、被害と効果：

令和7年8月6日からの大雨により、長崎県の雲仙岳特別地域気象観測所では最大日雨量366.5mm、最大1時間雨量90mmの降雨を観測し、土石流が発生したが、令和元年度～6年度に普賢岳北側斜面の国有林において整備した治山ダムが土石を捕捉し、下流域への被害を防止した。



背景：国土地理院地図

